

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・（何十何）－(何)で繰り下がって何十何になるひき算の仕方や，（2位数）－（2位数）の繰り下がりのない筆算の計算ができる。

・（2位数）＋（2位数）の繰り上がりのある筆算の計算ができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・53を50と3のように，十のまとまりと一のまとまりで考えることや，（十何）－（1位数）で10の束をばらして10をつくり，下の位へ加えて，繰り下げることを理解している。

○共同追究でのゆさぶり

・繰り下がりのある筆算の計算方法を考える経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・位ごとに計算してもよいことの意味を理解している。

≪学習問題≫

箱に入った53このキャラメルを26こ食べました。

なんこ残っているでしょうか。

教材研究ノート№2-A-3

②見通し：3－6は，計算できない。

　→　十の位の束をバラしてひき算ができるようにすればよい。

②学習課題：10のまとまりをばらして6がひけるようにする計算の仕方を考えよう。

仕方を，計算や図を使って

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：10をばらして追究し，計算の仕方を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの計算の仕方にも共通していることは何だろう？」

→「十の位から1下げて10にばらして一の位にいれて計算している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「40と20，13と6を別々にひいてから，合わせるやり方はいいのかな？」

→「十の束どうしと一の棒どうしをひくことと同じだから，別々にしてひいてもいいはずだ。」

「53を40+13，26を20+6と考えれば，53-26は40-20と13-6と位ごとの計算で考えられる。」

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・位どうしでひけないひき算は，十の位から1繰り下げて10の束をばらして下の位に入れて計算して，位ごとに合わせることで計算できた。

・2けたの場合も，たし算は順序をかえて計算してもよい。

⑥定着･活用問題

(1)次の計算をしよう。

1. 51－32　　②　40－24　　③　85－9

(2)50－20＋15－7は、どんな2つの数を計算しているのだろう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・位取り板の上で計算棒を操作して筆算の仕方を考える活動を位置づけ，繰り下がりの原理を，具体的操作を通して理解できるようにすることを大切にする。

・計算棒の操作と対応させながら筆算形式にかいて計算するようにし，10の位を先に計算するとその後修正が必要になることから，1の位から計算するよさに気付けるようにする。

【板書計画】